



おーい！くじらぐも

Vol.8 2022年（令和4年）2月号

発行人：社会福祉法人健翔会 くじらぐも

所在地：埼玉県行田市小見1141番地1

TEL：048-580-3634 FAX：048-554-8814

MAIL：kujiragumo@kenshokai.net

発行責任者：くじらぐも センター長 細川竜太

福祉サービスを利用するためには「くじらぐも」が作る『サービス等利用計画』が必要です。

「くじらぐも」は障害者総合支援法により、障害者・障害児に対し相談支援事業を提供する健翔会の第4号事業所です。

コロナ禍での相談方法は来所のほかに、電話やメールでの相談も承りますのでお気軽にご連絡ください。



一般就労のご利用者への相談支援も担当しています。



新年度が近づき行政対応で市役所に行く機会も増えています。



子ども食堂など公的な福祉サービス以外の地域の社会資源も情報提供しています。

『こだわりについての対処法』

ご利用者と関わるなかで、「こだわり」についての相談も多いです。私も、現場での支援のときには、永遠のテーマの一つでした。こだわる理由も本人しかわからないところもあるので、自分では大きく3つに分けて考えるようにしていました。

①こだわりに付き合う②こだわりを分ける③生活に悪い影響が出ているかの3点です。①では、おそらくその方のこだわりは続くので、こだわりを終わらせるという考え方ではなく、そのこだわりも長く続くわけではないという思いです。②③では、良い・悪い・どちらでもないに分けて考えました。ひとつの物にとことん詳しい、時間がきっちりしているなどは「良し」として、とことん褒めて、そこから何かに繋げないかと支援しました。物の位置や決まった服しか着ないなどは、まわりが合わせてあげれば困らないことなので「どちらでもない」です。基本的にやめさせる必要はなく、長い目で見れば別のこだわりにも変わること考えられます。悪いこだわりとして、同じ場面で必ずお菓子をねだったり、特定のものに対して自分の訴えを主張し、叶わないと癩癪(かんしゃく)やパニックになるなどです。このパターンのときは、ルールを決めてその決めたルールは必ず徹底すると職員に伝えてきました。そして、そのルールは本人にわかりやすいようにと。

こだわりへの支援は一筋縄ではいきません。また、家族と支援者側でも価値観や考え方が違うかもしれませんが、本人の思いや辛さに共感することに重点を置き、次はどう支援すればいいのかを考え提案することも大切なことだと思います。

<2月のトピックス>

ある児童の家族から、子どもが学校に行けなくなってしまい困っているとの相談がありました。母親が子どもを連れてくじらぐもに来てくれましたが、子どもの体が小刻みに震え怯えているようでした。話を聞くと、行きたくないと言う子どもに対して、学校側は来てしまえば生活ができると、我慢を続けながら登校してこのような状態になったのではないかとのこと。ずっとうつむいたままの子どもに私は「行きたくなければ行かなくてもいいのでは。」と伝えました。今、この子どもには心の休息が必要ではないかと感じたからです。足が向いたときには、学校に行ける準備を整えるため、まず人(特に大人)に慣れることを勧め、放課後等デイサービスの利用を始めました。利用の様子を見に行くと、その子どもは楽しそうに職員と遊具で遊んでいました。その笑顔と職員との会話に、自分の居場所を見つけたのだと感じ、うれしく思いました。